

看護部スタッフ

部長 氏名 江藤 由美
 副部長 氏名 水谷 泰子 (教育)
 森 多佳美 (総務)
 小瀬古 隆 (業務)

看護職員数 常勤 508名
 非常勤 123名
 非常勤看護助手 71名
 (H29年3月現在)

■ 基本理念と方針

当院は三重県下唯一の特定機能病院として高度先進医療に貢献すること、さらに次代を担う人材の育成と臨床研究を推進するという使命があります。その使命を果たすために看護部は、一人ひとりの患者さんに最善の看護を提供することを基本理念としています。私たちは、専門職としての倫理観を持ち、看護職としての能力の維持・向上に努めることのできる自己教育力を備えた看護師を育成したいと考えております。また、国際化時代に対応できるよう、グローバルな視点をもつ看護師の育成も重要な使命と考えております。

1. 看護部基本方針

- 1) 患者の信頼と安心が得られる看護を安全に提供する
- 2) 地域の看護を牽引し、看護の国際交流に努める
- 3) 看護職を担う人々を育成し、臨床での看護研究を推進する

2. 看護部活動方針

- 1) 高い倫理観を持ちつつ看護実践能力を高めることにより、よりよい看護を提供する
- 2) 看護学科との連携を強め、看護教育の充実を図る
- 3) 職務満足の高い環境を整え、離職防止に努める
- 4) 病院経営に参画する

■ 看護部の組織と体制

看護部の組織として、看護部長(1名)、副看護部長(3名)のもと、病棟部門(15)、外来部門(2)、中央部門(3)にそれぞれ看護師長・副看護師長を置いています。そして、組織横断的な対応を行う看護の質管理部門として8部門を設置しています。また、看護師長で

構成する諮問委員会(表1)を設置し、年度の目標達成に向け活動しています。

表1 平成28年度諮問委員会

委員会名	検討事項
患者サービス委員会	・患者さんの声を反映する仕組み ・患者満足度調査の実施 ・スタッフの患者体験に関すること
看護倫理検討委員会	・各部署の倫理感性を高めるための方策
看護経営委員会	・診療報酬を新たに申請できる項目の検討 ・物品などの削減に関すること ・会議の時間内実施と、超過勤務削減に関すること
退院支援・調整委員会	・各部署が退院に向けて取り組める仕組み作り
機能分化に向けた体制づくり委員会	・術後や救急患者のケアができる看護体制作り
職員の満足度を高めるための委員会	・ワークライフバランスへの取り組み ・休日の増加、土日の連続休暇取得に関すること
電子カルテ委員会	・電子カルテ全般に関する運用の課題に関すること

■ 活動内容

看護部活動方針に基づき以下を実施しました。

- ・各部署の倫理感性を高める方策を検討した。
- ・専門認定看護師の養成を積極的に進め、今年度新たに2名が認定看護師と認定された。
- ・患者サービスの充実を図るための方針を検討した。
- ・退院に向け、各部署でよりよい取り組みができるように検討した。
- ・医療機能分化に向けて体制を検討した。
- ・卒後教育の推進を図った。
- ・看護学科教員により看護研究指導を受ける仕組みを検討した。
- ・看護学科との人事交流を深めた。
- ・臨地実習の受け入れ環境を整備した。
- ・職務満足度調査を実施し、各部署の優れた部分の評価および課題への取り組みを推進した。
- ・目標管理をとおしてよりよい看護の提供に努めた。
- ・ワークライフバランスに向けた取り組みを検討した。
- ・共通病床の利用を促進し、病床稼働率向上に努めた。

■ 主な実績

看護部教育活動として、クリニカルリーダー

院内認定、静脈注射などの研修を行い、それぞれ認定者、合格者が誕生しました(表2)。実習及び研修の受け入れでは、海外からの学生受け入れも実施しました(表3)。さらに英国バーミンガム・クイーンエリザベス病院へ1名、タイチェンマイ大学へ1名の職員派遣を行いました。

また、学会ならびに研究会・地方会での発表は38件、執筆は17件でした。

表2 クリニカルラダー・院内認定・静脈注射認定者

	人数
クリニカルラダーレベルⅠ認定者	54
クリニカルラダーレベルⅡ前期認定者	72
クリニカルラダーレベルⅡ後期認定者	15
クリニカルラダーレベルⅢ認定者	4
皮膚排泄ケア 初級認定数	31
皮膚排泄ケア 中級認定者	17
がん看護 初級認定者	19
がん看護 中級認定者	2
静脈注射認定クラス3薬剤ランク2a b合格者	78
静脈注射認定クラス3薬剤ランク2c合格者	76
静脈注射認定クラス3薬剤ランク2d合格者	76

表3 実習・研修受け入れ

	人数
大学院生	6
大学生	460
看護学校生	47
養護教諭養成課程	1
潜在看護職員等復職研修	18
准看護師	10
専門学校専任教員臨床研修	4
海外学生	15

■ 今後の展望

今後も、高度急性期・急性期を担う病院の看護職として必要な知識・技術を身に付けた看護職の育成を継続し、質の高い看護を提供できるように取り組みたいと思います。

また、医療人の育成と未来を拓く臨床研究の推進を担う大学病院として、国内外の学生や研修生を受け入れるとともに、個々の看護職員が研究マインドを持って働くことのできる職場作りに取り組んでゆきたいと思います。